



決算説明資料

2020年3月期



証券コード

5936

2020年6月5日

東洋シャッター株式会社

2020年3月期 決算概況 P 3

経営環境	P4~6
決算概要	P7
収益性分析	P8~11
製品別売上明細・実績推移	P12~15
受注実績・受注残高推移	P16
メンテサービス事業の状況	P17
キャッシュ・フロー計算書	P18

その他トピックス P 30

ハーマン提携製品のラインナップ	P31~33
その他注目度の高い最近の製品	P34

参考資料 P 35

東洋シャッターの概要	P36,37
------------	--------

中期経営計画について P 19

中長期的な事業環境予測と対応方針	P20
中期経営計画『BRUSH UP 3』	P21~25
連結業績推移・計画	P26
2021年3月期業績計画	P27
設備投資額・減価償却費の見通し	P28
配当の状況	P29

2020年3月期 決算概況

TOYOShutter

東洋シャッター株式会社

国内経営環境

国内
経済

国内経済は緩やかな回復基調で推移



建設
市場

再開発案件など民間設備投資が相次ぐ首都圏は堅調
首都圏以外は横ばいの推移



シャッター
市場

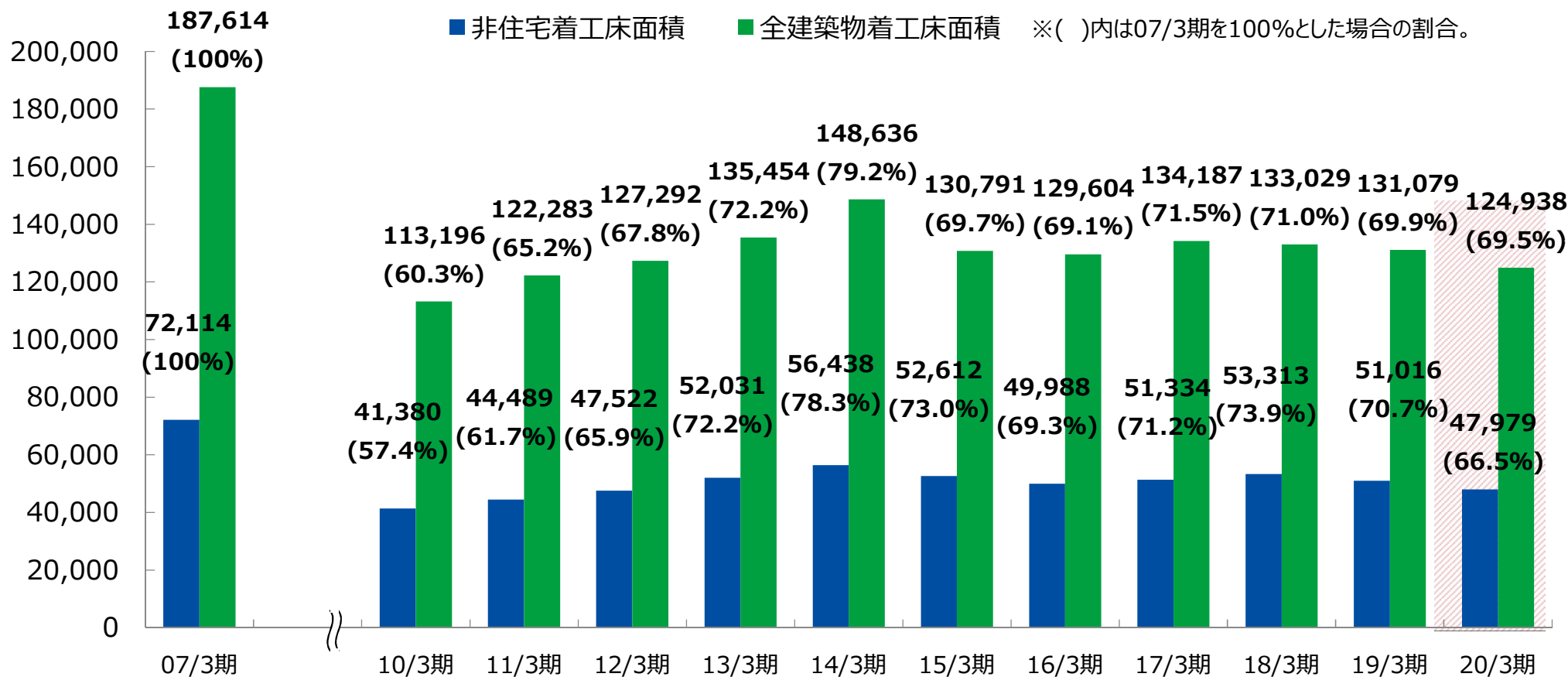
需要全体の増加までには至らず、計画案件の都市部
集中化と大型化により販売面では厳しい受注競争が継続

新型コロナウイルス感染症による経済への影響が予想される
当社事業に及ぼす影響は、現時点では算定困難

非住宅着工床面積の推移

● 非住宅着工床面積は2年連続の微減と伸び悩む

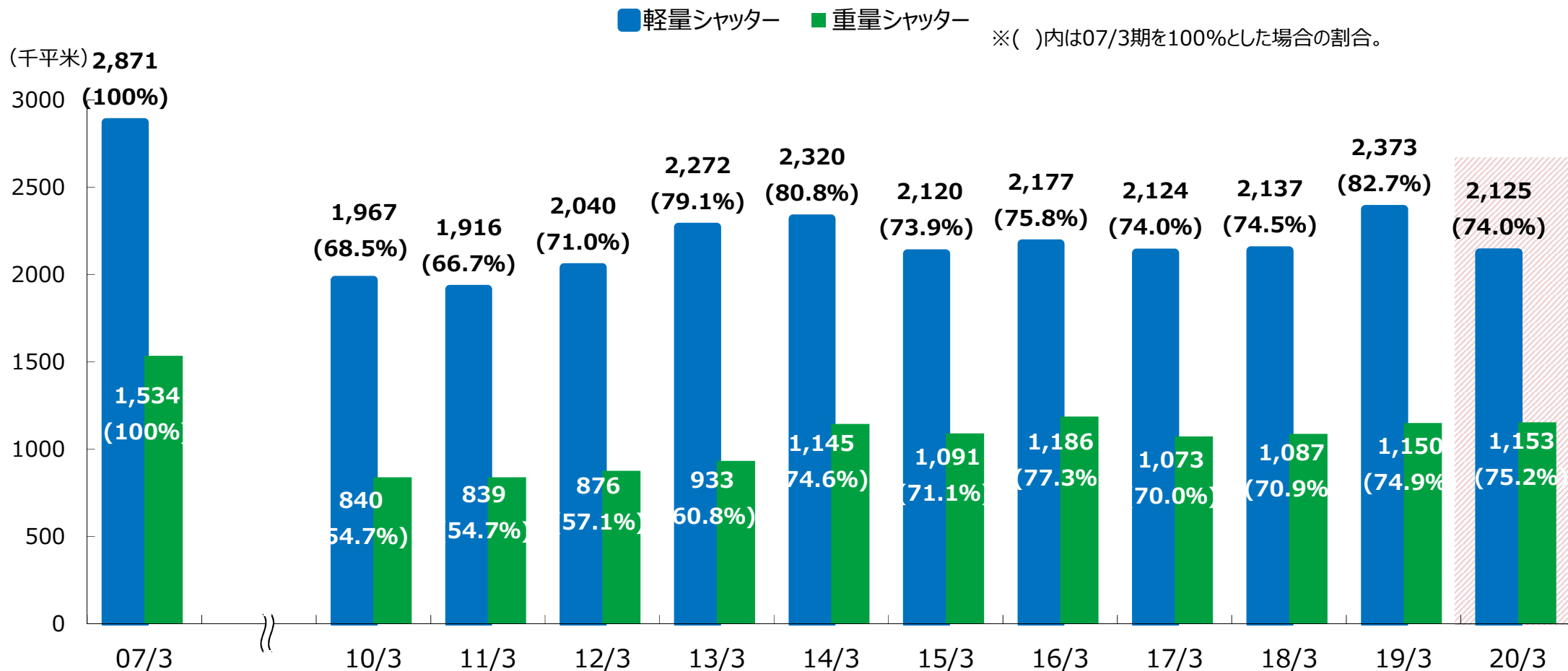
(着工床面積:千㎡)



(資料) 国土交通省、(財)建設経済研究所資料より推計

JSDA（日本シャッター・ドア協会）集計 生産数量推移

- 前年度の自然災害の影響もあり、軽量シャッターは前年比10%減少
- 重量シャッターはほぼ横ばいで推移



(資料)JSDA生産数量より推計

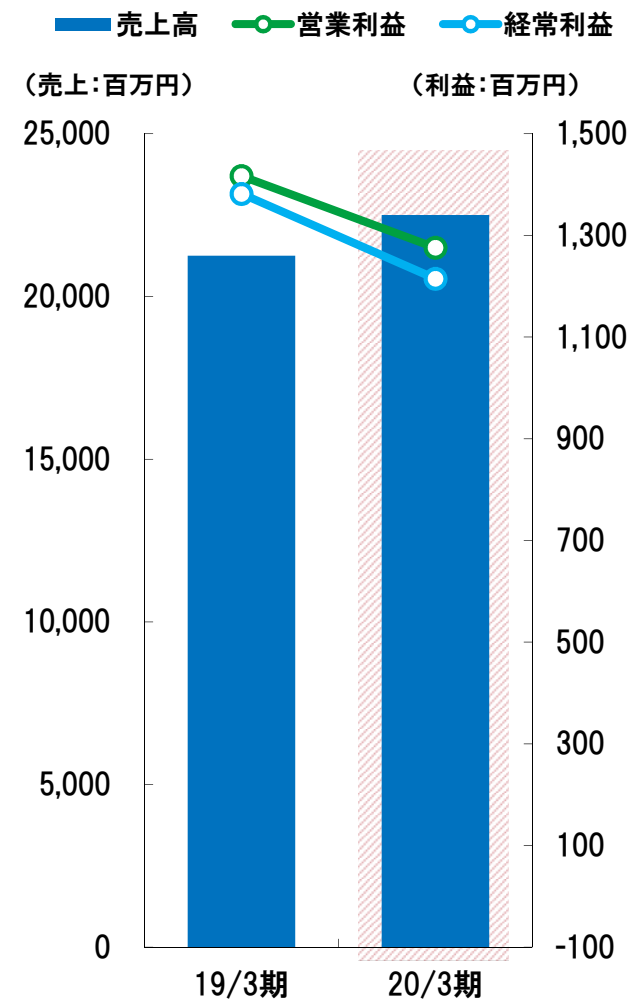
- ① 売上高 : 前年同期比5.9%増の225億500万円
- ② 営業利益 : 前年同期比10.0%減の12億7,600万円
- ③ 経常利益 : 前年同期比12.0%減の12億1,500万円
- ④ 親会社株主に帰属する当期純利益 : 前年同期比7億1,800万円増の7億8,800万円

※19/3期の親会社株主に帰属する当期純利益には減損損失984百万円を含む

(百万円)	19/3期	20/3期		
		期初計画	修正計画	実績
売上高	21,251	19,500	21,000	22,505
営業利益	1,417	700	900	1,276
経常利益	1,382	600	800	1,215
親会社株主に帰属する 当期純利益	69※	400	480	788

- 想定外の大型物流施設の新規案件受注
- 一昨年の台風の混乱で手控えられていた小口案件が進捗

(百万円)	19/3期	20/3期	前期比 増減率
売上高	21,251	22,505	5.9%
売上原価	15,376	16,818	9.4%
売上総利益	5,875	5,686	△3.2%
売上総利益率	27.6%	25.3%	
販売管理費	4,457	4,410	△1.1%
営業利益	1,417	1,276	△10.0%
営業利益率	6.7%	5.7%	
経常利益	1,382	1,215	△12.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	69	788	
減価償却費	432	433	0.2%



収益性改善の取り組み

1 安定的な生産量の確保

2 「メンテサービス」の強化・拡大

3 採算管理の強化

4 業務効率化による少数精鋭体制確立

四半期ごとの売上高・営業利益の推移

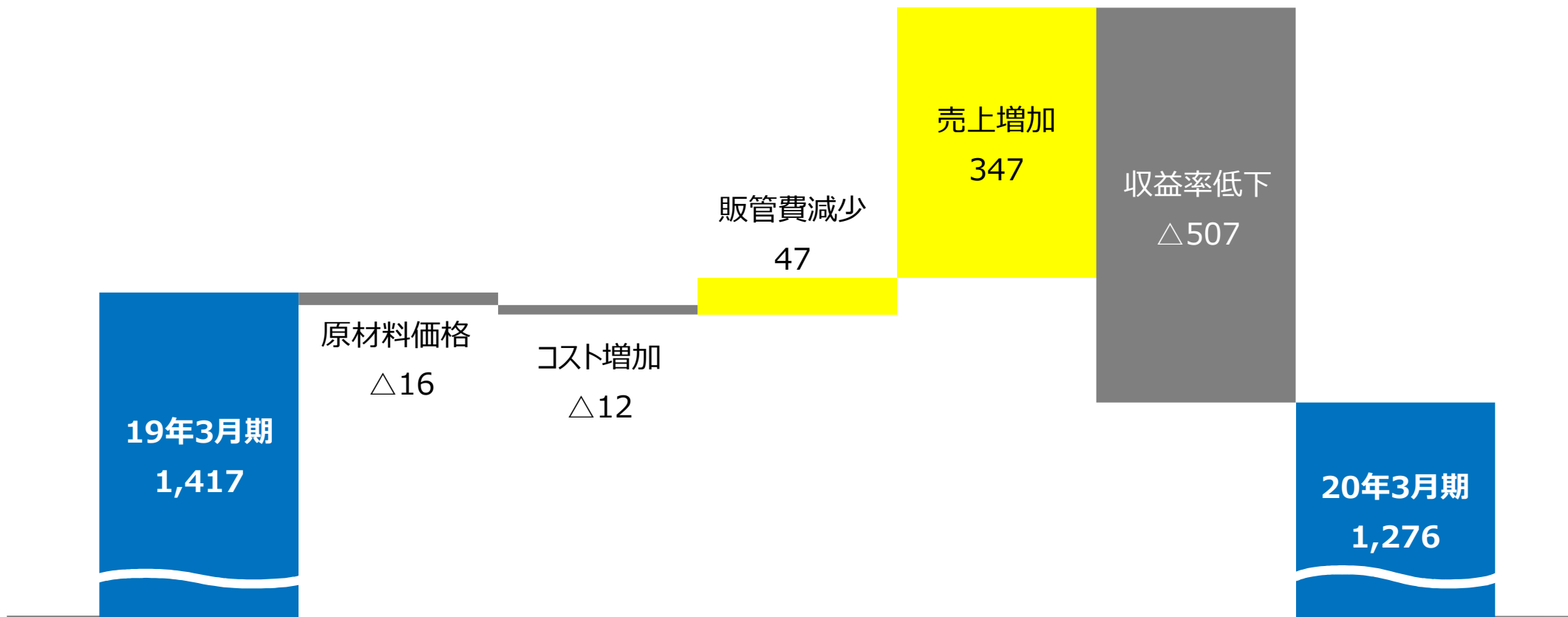
- 積極的な営業活動によって売上高・営業利益を確保
- 前年度は自然災害による復旧需要があったため、前年度対比では減益

(百万円)		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	累計
売上高	2015/3	3,966	4,701	4,583	5,557	18,807
	2016/3	4,315	4,528	4,688	5,009	18,540
	2017/3	3,762	4,314	4,427	5,317	17,820
	2018/3	3,996	4,598	4,849	5,600	19,043
	2019/3	4,097	4,823	6,105	6,226	21,251
	2020/3	4,961	5,788	5,464	6,292	22,505
営業利益	2015/3	157	463	371	467	1,458
	2016/3	161	310	337	358	1,166
	2017/3	14	234	219	289	756
	2018/3	16	148	205	209	578
	2019/3	57	153	640	567	1,417
	2020/3	185	369	250	472	1,276

営業利益増減要因 前期比

- 大型案件の受注競争激化等による収益率の低下はあったものの、売上増加により一定の営業利益を確保

(単位：百万円)

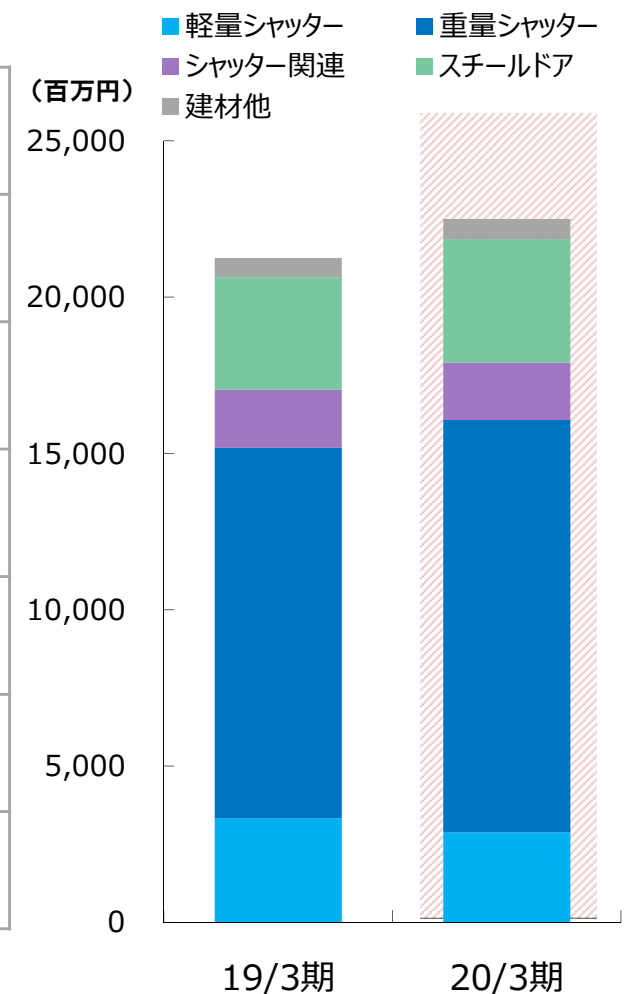


全製品別売上実績

- 大型案件が順調に完工し、重量シャッターが全体をけん引
- 前年度の大型台風の強風被害の反動により、軽量シャッターは減少

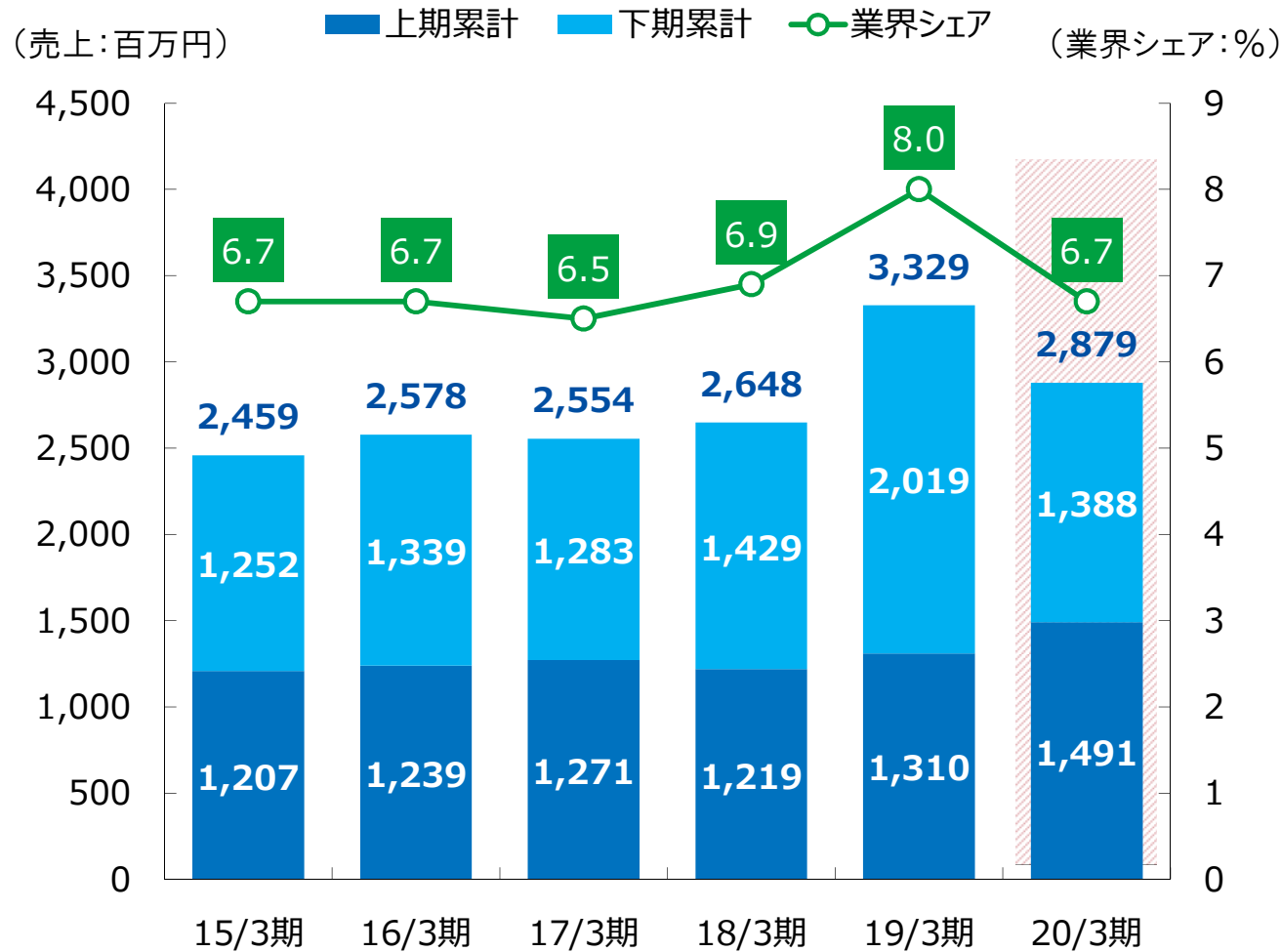
(単位:百万円)

(百万円)	19/3期	構成比	20/3期	構成比	前期比 増減率
軽量シャッター	3,329	15.7%	2,879	12.8%	△13.5%
重量シャッター	11,848	55.7%	13,189	58.6%	11.3%
シャッター関連	1,863	8.8%	1,829	8.1%	△1.8%
スチールドア	3,597	16.9%	3,957	17.6%	10.0%
建 材 他	612	2.9%	648	2.9%	6.0%
合 計	21,251	100%	22,505	100%	5.9%



軽量シャッター

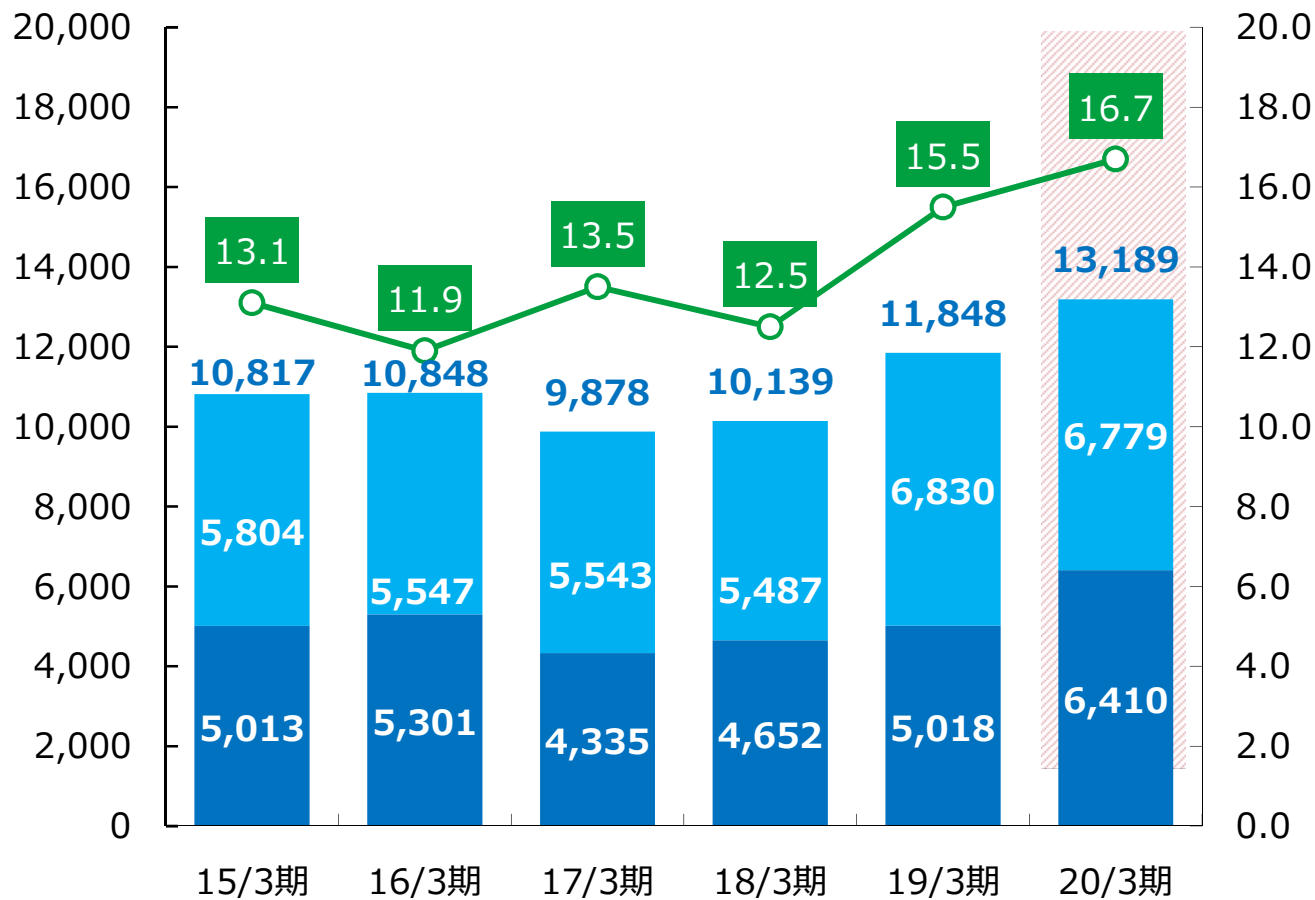
- 売上高は13.5%減少
- 昨年の関西地区を襲った自然災害の影響がなくなり、業界シェアは1.3%減少



重量シャッター

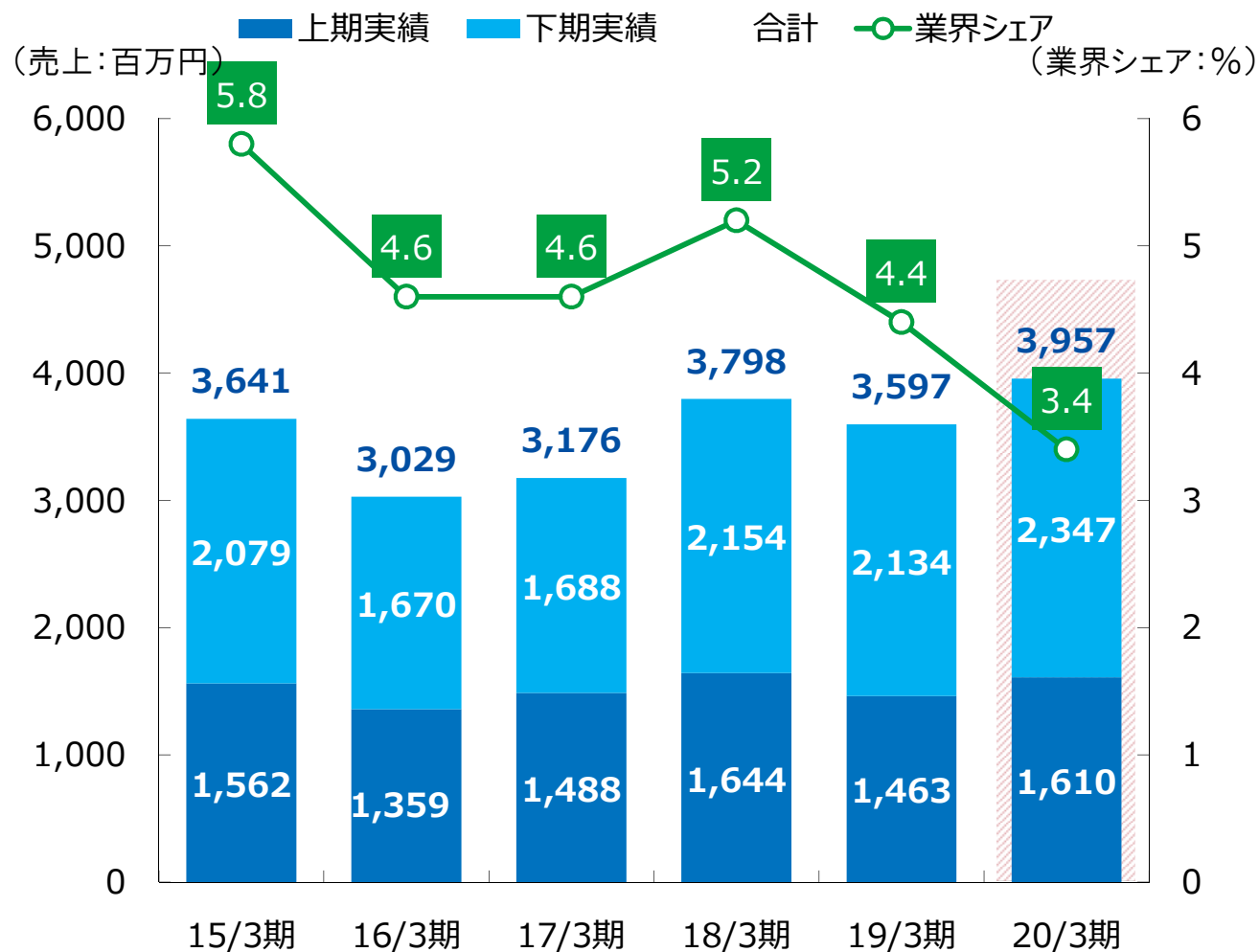
- 大型物流施設を中心とした大型案件の順調な完工により、売上高は11.3%増加

(売上:百万円) ■ 上期累計 ■ 下期累計 ○ 業界シェア (業界シェア:%)

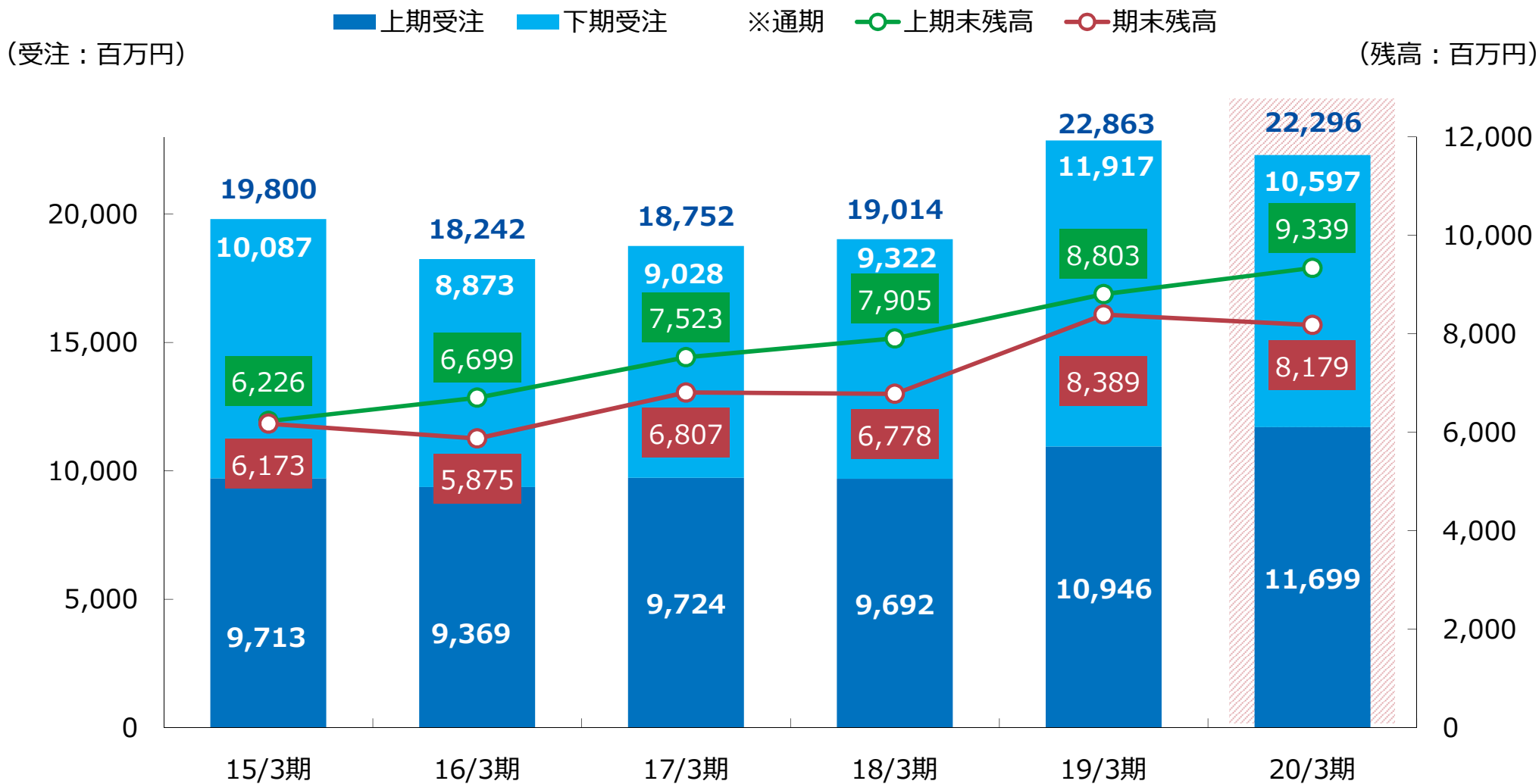


スチールドア

- 関東圏での再開発ビル案件の竣工が相次ぎ、マーケットが拡大
- 売上高は前年同期比で10.0%増加するも、業界シェアは1.0%減少

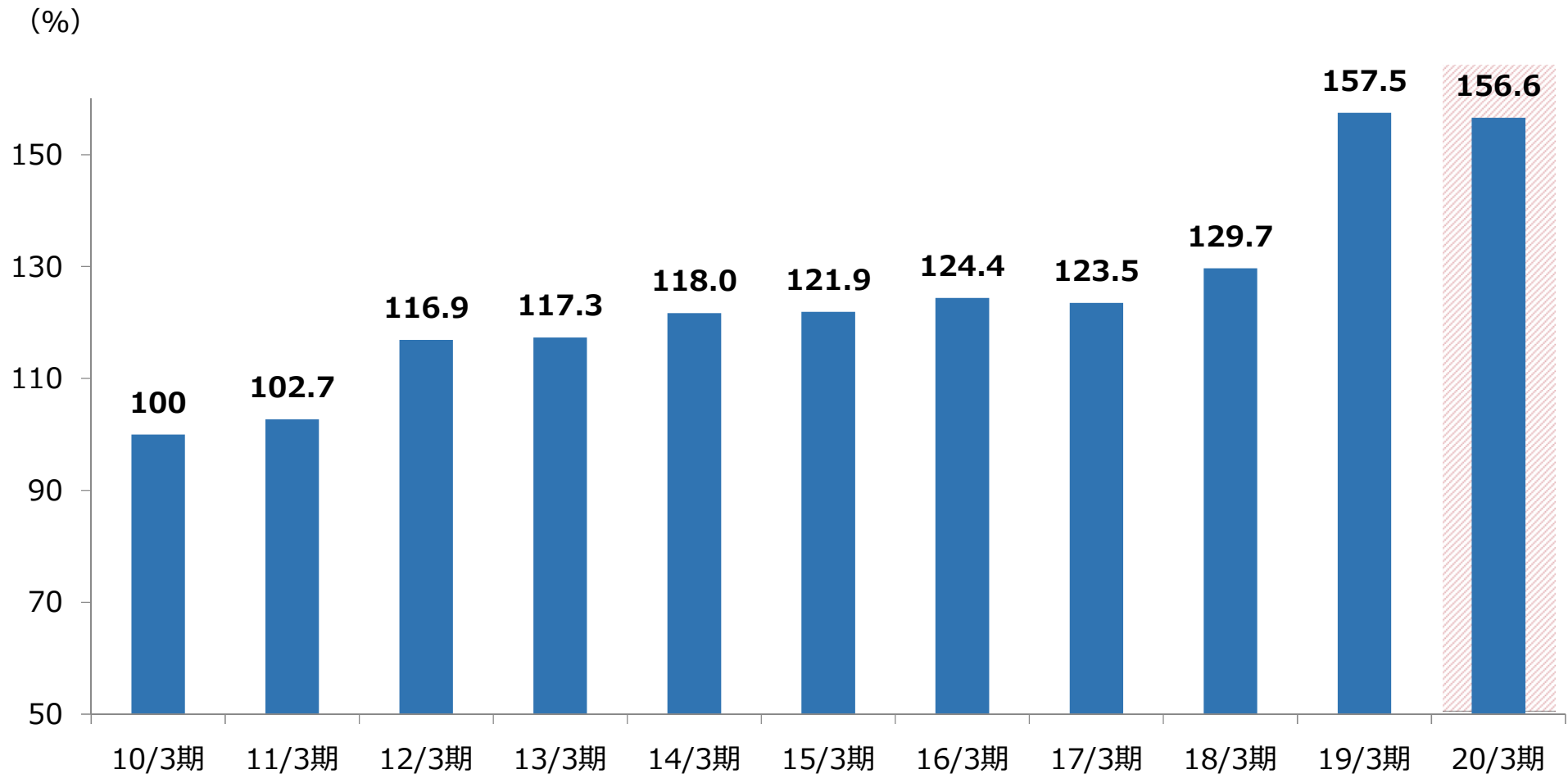


- 期末受注残高は高水準を維持
- 新型コロナウイルスの影響で工事延期等の可能性もあり、例年と比べ先行き不透明



※受注実績・受注残高は、工事進行基準適用後の金額

- 前年度に引き続き、自然災害による復旧需要が一定レベルあり、堅調に推移
- 今後も、防火設備の定期点検法制化への対応など継続的に強化を図る



* 10/3期を100とした場合の売上高の推移。

キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動 C F : 仕入債務の減少によるもの
- 投資活動 C F : 固定資産の取得によるもの
- 財務活動 C F : 長期借入金の返済によるもの

(百万円)	19/3期	20/3期
期首現金・現金同等物残高	1,671	2,426
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,515	519
投資活動によるキャッシュ・フロー	△70	△96
フリーキャッシュ・フロー	1,445	423
財務活動によるキャッシュ・フロー	△690	△570
期末現金・現金同等物残高	2,426	2,278



中期経営計画「BRUSH UP 3」について

TOYOShutter

東洋シャッター株式会社

非住宅着工床面積は2年連続で微減と伸び悩む

さらに新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明

建築工事の
中断、延期、中止の可能性

企業収益の悪化に伴う
設備投資の冷え込みの可能性

業界に与える影響などはっきりとした動向が見通せない

このような状況下においても事業基盤の確立を進める
営業活動による受注確保・販売拡大を展開
徹底した受注案件の採算管理強化を行う
段階的投資による業務全般の効率化の推進を図る

中期経営計画期間 連結業績予想

- 新型コロナウイルスの感染拡大が当社事業に及ぼす影響を現時点において合理的に算定することが困難であるため未定

(百万円)	19/3期実績	構成比	20/3期実績	構成比	21/3期	構成比
売上高	21,251	—	22,505	—	—	—
	(19,000)		(19,500)		(20,000)	
営業利益	1,417	6.7%	1,276	5.7%	—	—
	(600)	3.2%	(700)	3.6%	(800)	
経常利益	1,382	6.5%	1,215	5.4%	—	—
	(500)	2.6%	(600)	3.1%	(700)	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	69	0.3%	788	3.5%	—	—
	(300)	1.6%	(400)	2.1%	(450)	

※ () 内は当初計画

中期経営計画



BRUSH UP 3
—磨き上げよう企業品質—

行動力・スピード・稼ぐ力

▶ 経営理念 ◀
私たちは企業品質の向上を目指し、安全・安心・快適・感動を提供するとともに
社会の進歩発展に貢献します。

▶ 経営ビジョン ◀
【方 向 性】環境に応じたスタイルを追求し、行動力・スピード・稼ぐ力を全員で磨きます。
【主 力 事 業】商品開発・ものづくり改革に挑み、主力事業の完成度を高め、お客様との絆を深めます。
【新分野へ挑戦】新たな出会いや新しい分野への挑戦を目指し、次世代に繋がる収益基盤を構築します。
【個々の責任】社員や共に働く人々は日々成長を志し、新しい自分と出会えるよう自己研鑽に励みます。

▶ キーワード ◀
強い会社、強い組織、強い社員

TOYO Shutter

企業品質の向上を目指し、
安全・安心・快適・感動を
提供し続けると共に、

社会の進歩発展に
貢献することを目標とし、

全社一丸となって
新しい中期経営計画を推進。

1

環境に応じたスタイルを追求し、
行動力・スピード・稼ぐ力を全員で磨く。

2

商品開発・ものづくり改革に挑み、
主力事業の完成度を高め、お客様との絆を深める。

3

新たな出会いや新しい分野への挑戦を目指し、
次世代に繋がる収益基盤を構築する。

4

社員や共に働く人々は日々成長を志し、
新しい自分と出会えるよう自己研鑽に励む。



経営

コーポレートガバナンスを一層強化し、更なる内部統制の充実と意思伝達の迅速化を図る。

**売上
増強**

主力事業での売上増強策として、ラインナップの充実、既存販売網で拡販出来る商品開拓を行う。

**収益力
強化**

受注案件の採算管理を一層推し進め、稼ぐ力を磨くとともに、全社コストと時間管理の見直しにより収益力強化を図る。

**ストック
対策**

メンテナンス事業は構築してきた基盤での保守点検契約の獲得に向けた動きを行う。



投資

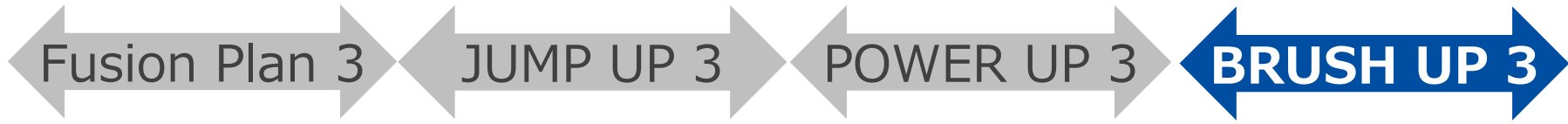
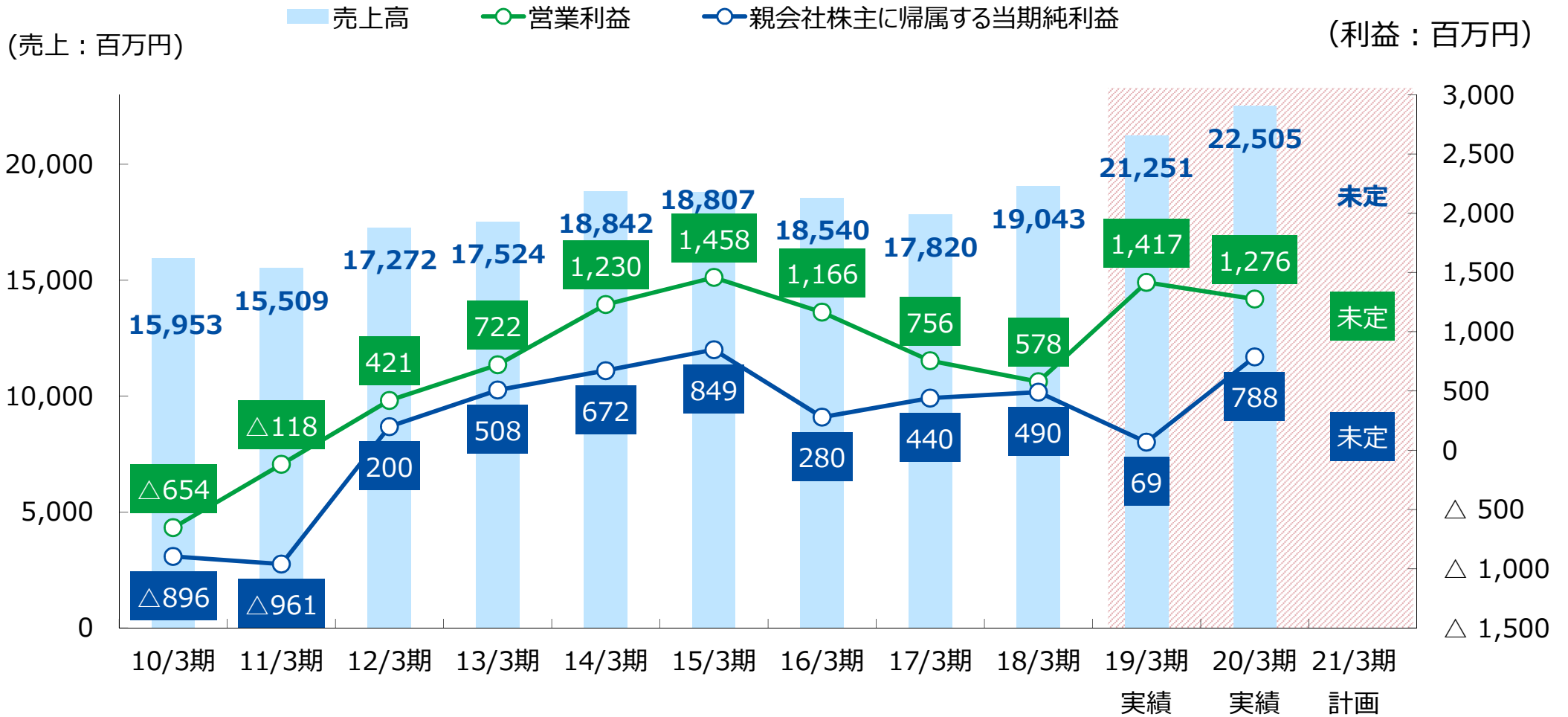
自動化、省力化、効率化、多能化を実現するため、段階的投資を行い、生産体制と設計施工体制の強化に努める

人材育成

人員の、適材適所の配置と最大パフォーマンスの発揮が出来る、個別の職務開発の実施、社員一人ひとりの成長に向けた自己研鑽に励む風土を醸成する

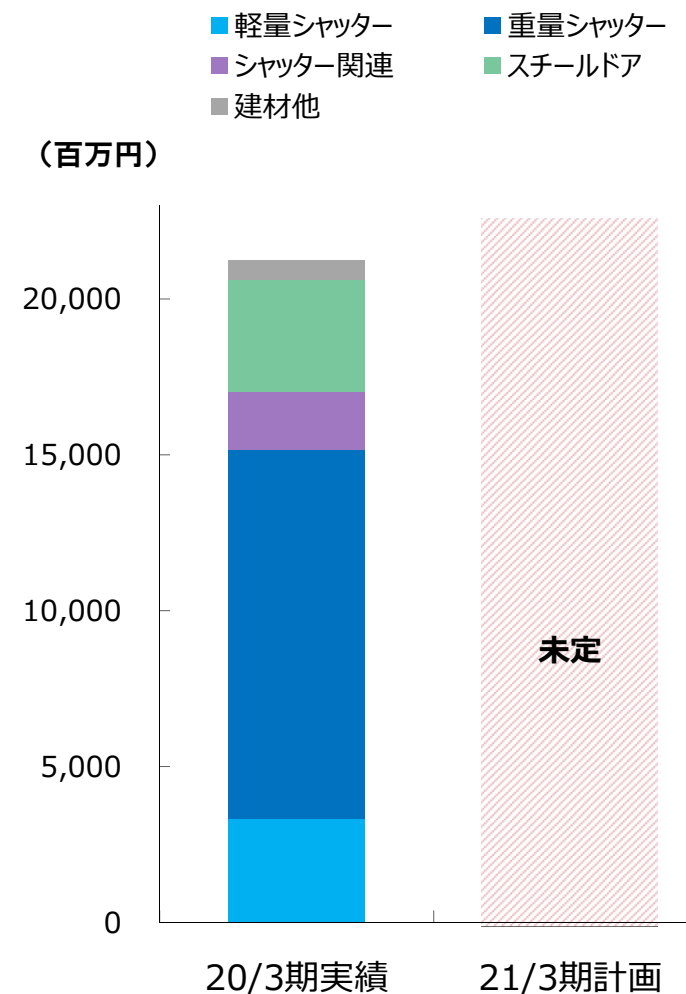
配当方針

効率化改革に資する設備投資や研究開発費に必要な内部留保の確保、財務状況や業績等を勘案しながら、株主の皆様に安定的な配当を目指す。

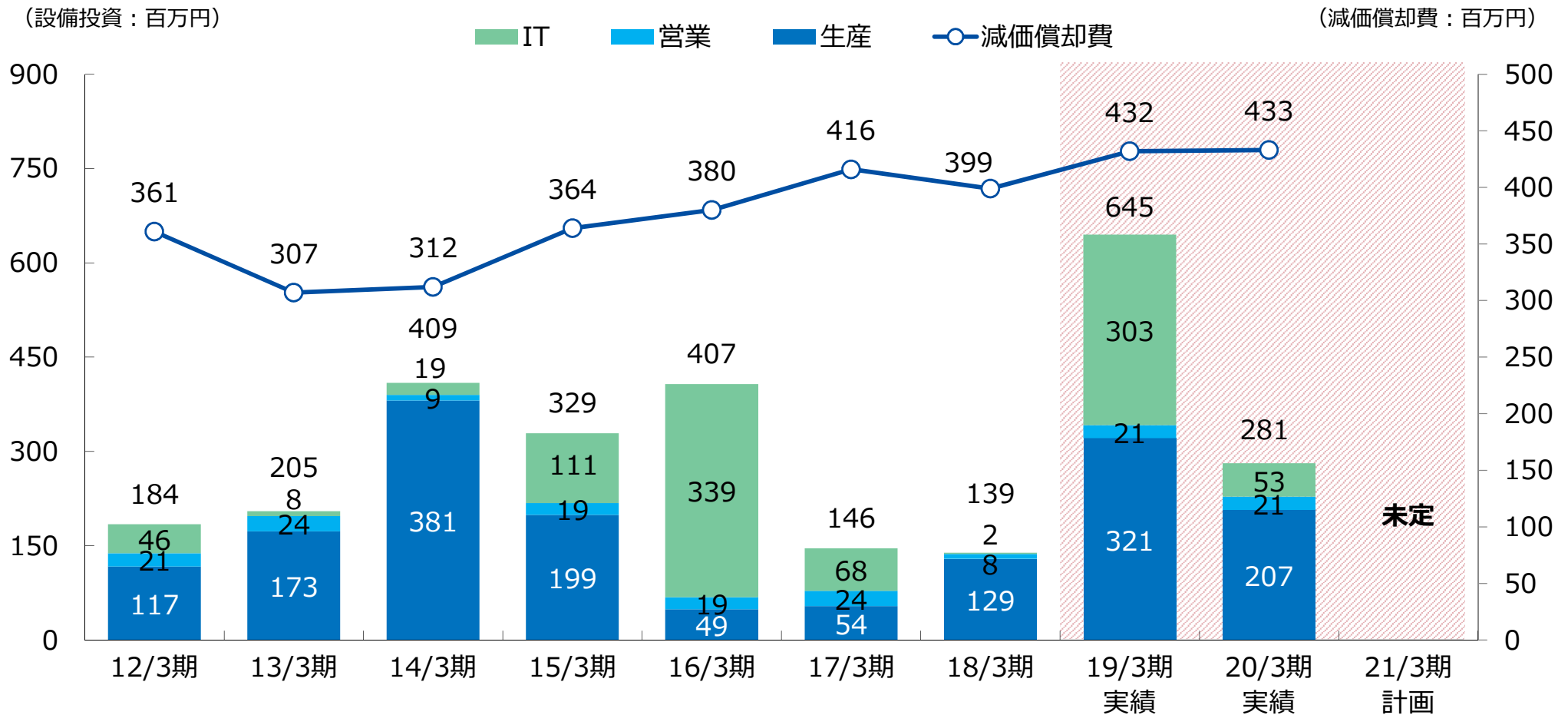


- 2021年3月期の連結業績予想の開示を見送り
- 新型コロナウイルスの感染拡大が当社事業に及ぼす影響の確認を進め、速やかな開示を目指す

百万円	20/3期 実績	21/3期 計画
売上高	22,505	—
軽量シャッター	2,879	—
重量シャッター	13,189	—
シャッター関連	1,829	—
スチールドア	3,957	—
建材他	648	—
営業利益	1,276	—
営業利益率	5.7%	—
経常利益	1,215	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	788	—

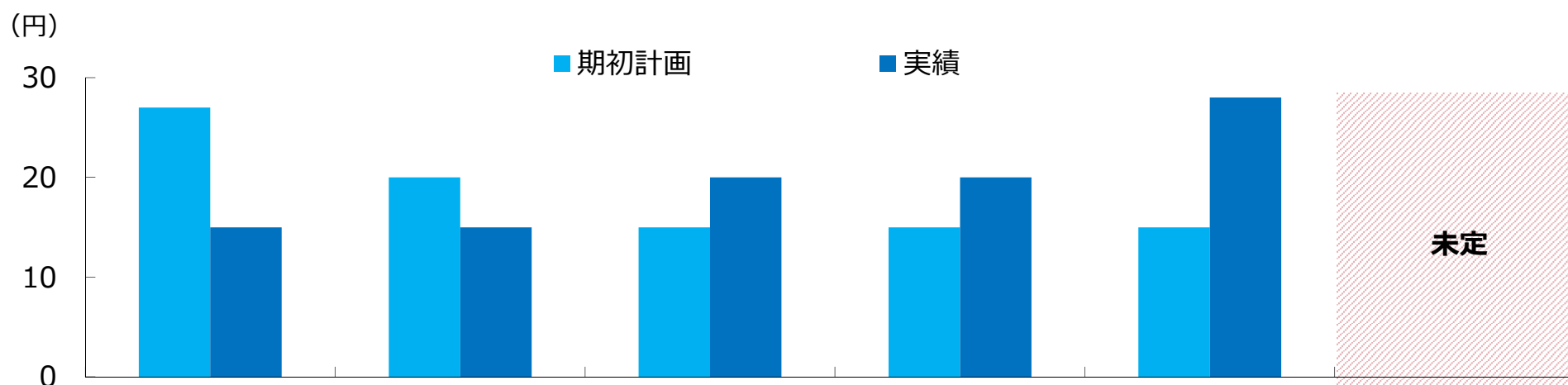


- 投資計画に対して、上期は概ね予定通りの進捗するも生産設備などの一部が期ずれ
- 21年3月期の設備投資計画については業績を勘案しながら判断していく



※投資にはリースの実行額を含んでおります。

- 財務状況や業績等を勘案し、安定的な配当を目指す
- 通期業績予想が困難であるため、期末配当予想は未定



	16/3期		17/3期		18/3期		19/3期		20/3期		21/3期
	期初計画	実績	期初計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画
通期配当金	27円	15円	20円	15円	15円	20円	15円	20円	15円	28円	—
配当性向	20.3%	33.9%	20.5%	21.6%	19.4%	25.9%	31.7%	182.5%	23.8%	22.5%	—

その他トピックス

TOYOShutter

東洋シャッター株式会社

高速シートシャッター<シュネルマイスター>



高速シートシャッター
シュネル  **マイスター**

製品概要

【特長】

- 工場や倉庫の頻繁な搬入作業に高速スピード開閉で対応する高速シートシャッター
- 高速スピード開閉により省エネ効果・作業効率のアップが期待されるとともに、安全面での機能は大変重要なポイント
- 独自の安全機能を備えた高速シートシャッターは不測の事故を未然に防ぎ、また万が一の場合においてもその被害を最小限にとどめ、工場や倉庫の作業環境を安定的に維持

ハイスピードシャッター<シュネルカイザー>



ハイスピードシャッター
シュネル  **カイザー**

製品概要

【特長】

- 省エネ
 - 1.2m/sの開放速度で開放時間を短縮し、工場や倉庫内の冷気(暖気)の漏れを最小限に抑える
 - 本体パネルは発泡ウレタンを充填しており、閉鎖時の断熱性能が高く省エネ効果が期待できる
- 安全
 - ライトグリル（46mmピッチの多重光電センサー）をガイドレールに標準装備、フロアから1800mm迄の非接触感知により安全性を高めている
- 高耐久性
 - パネルを渦巻き状に巻き取り、パネル同士が接触しないノータッチロール機能及びスロースタート、スローストップのインバーター制御により高耐久性を実現
- 多様性
 - 発泡ウレタンを充填したパネルにより、断熱性能に加え、遮音、耐風圧性能も備え、様々なニーズに対応

住宅用ガレージドア<シュネルスピッツ>



製品概要

【特長】

- ウレタン充填パネルによる優れた断熱性、耐風圧性、静音性
 - パネルは内部に発泡ウレタンを充填した2層スチールパネル構造。断熱性、耐風圧性能に優れるほか、開閉時の静音性にも効果
- ヨーロッパのスタイリッシュなパネルデザイン
 - パネルのデザインは3種類あり、それぞれに適用されるパネル形状とカラー
- ガレージでの使用を考慮した高い安全性能
 - スプリング安全装置を内蔵したスプリング技術
 - ドアトラックローラー
 - パネルの指詰め防止
 - 自動ロックシステム

防音ドア (TSレバータイト)



製品概要

- 高い遮音性能と、開閉操作の向上
 - 従来、高い遮音性能を必要とする所には、グレモン装置を用いたPATドアを用いてきたが、オリジナルのマグネット入りのゴムを用いることで、レバーハンドルでもPATドアと同等、またはそれ以上の遮音性能を確保しながら、操作性を向上
- 豊富なバリエーションとオプション
 - すべての遮音グレードに窓付仕様をシリーズ化
 - バリアフリー対応として、床の段差を極力小さくしたフラットタイプが選択可能
 - 防音FIX窓
TSレバータイトと組み合わせて設置することで遮音性能を保ちつつ、内部の可視化が可能に



参考資料 (東洋シャッターの概要)

TOYOShutter

東洋シャッター株式会社

商 号	東洋シャッター株式会社
設 立	1955年9月10日
資 本 金	20億2,421万円
株 式 上 場	市場第1部（東京証券取引所）（No.5936）
本 店 所 在 地	大阪府中央区南船場2丁目3番2号 南船場ハートビル12F
代 表 者	代表取締役社長 岡田 敏夫
従 業 員 数	546名（2020年3月末連結）
事 業 所	2本社、9支店、1営業部、57営業所・メンテナンスセンター その他特約店、取次店全国主要都市
製 造 施 設	奈良工場、つくば工場、九州工場
子 会 社	南東洋シャッター株式会社

1955年 9月	大阪市西淀川区でシャッターの販売を目的として創業
1973年10月	東京本社を東京都中央区に開設し、二本社体制
1987年10月	(株)日本シャッター製作所と合併 九州支店、鹿児島支店、枚方工場、九州工場、(株)南日本シャッター製作所を継承
1989年 2月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
1989年 9月	東京証券取引所および大阪証券取引所の市場第一部に指定替え
1993年 3月	つくば工場を新設し、土浦工場を閉鎖
2000年 5月	枚方工場を閉鎖し、奈良工場に集約。九州工場を鹿児島に集約移転
2003年 7月	大阪市中心部南船場に本社移転
2009年 2月	中期3ヵ年計画「Fusion Plan 3」を策定
2011年 2月	独ハーマン社と資本・業務提携契約締結
2012年 5月	中期3ヵ年計画「JUMP UP 3」を策定
2015年 5月	中期3ヵ年計画「POWER UP 3」を策定
2018年 5月	中期3ヵ年計画「BRUSH UP 3」を策定

この資料には、当社の業績や事業計画などに関する将来的予想を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予想に関する記述および資料は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想です。

実際の業績などは、今後の経済動向、その他の社会・政治情勢等様々な要因により、記述されている将来予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2020年6月